

令和6年度

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	株式会社 こばやし	代表者	小林大阿	法人・事業所の 特徴	運営理念：明るく前向きに相手の立場を尊重、すべての人を平等に、その人らしさを大切に介護サービスに努めます。話しをよく聞ける、待てる介護をします。地域、社会との連携を密に、素直な心で介護にあたります。
事業所名	小規模多機能ホーム こばやし	管理者	池野札子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	1人	3人	人	2人	人	人	5人	人	12人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	利用者の自立支援に向け、何が必要か、何ができるか考える。(カンファレンス・評価)。職員全員のケアの質を向上させるための取り組みをする。認知症の基礎知識を再確認し全職員のレベルアップを図る。	・利用者ごとのケア確認を実施、必要に応じて随時カンファレンスを開きました。・外国人実習生と調理や送迎係の職員も認知症基礎研修を修了し、職員全員、常勤・非常勤に関わらず全員が認知症基礎知識をレベルアップできました。	・事業所の事がだんだん分かり、利用が必要になったら家族を入れてもいいかなと思えるようになった。	・個々の利用者に何が必要か、何ができるか自立支援の立場で常に意識してケアを行う。 ・看護師と連携し毎日の排泄記録から体調の悪化を予防する。 ・ケアマネ業務を同会社の居宅と連携しWチェックしていきます。
B. 事業所の しつらえ・環境	アットホームな雰囲気的空間と笑顔のスタッフの対応を心掛ける。	・利用者・家族、特に新規の方に対しては笑顔で穏やかに接するようにしました。	・当事業所の出入り口の上部に手動で1ヶ所、利用者の手が届かない鍵があります。日中の施錠はありませんが、必要時と夜間に安全のため施錠します。	緊急時の対応や日常生活の働きかけもチームで対応する。職員同士で声かけあい不適切な対応にならないようにする。
C. 事業所と地域の かがわり	訪問時、通勤時、事業所に来られた時には明るく気持ちのよい挨拶を行う。	・屋外で会った時もこちらから挨拶ができるように心がけました。	・職員の挨拶はできています。 ・年1～2回でも事業所の見学会があるといい。・地域の方は当事業所の名前などは知っていてもどういう所かは知っているかどうか分からない。	・事業所のイベント情報などを発信して地域の方に知ってもらう。 ・事業所の見学会を開き地域の方の理解を深める。
D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	家族、地域の方、民生委員と連携・協働ができるように工夫する。一人暮らしの方を招待し事業所見学を計画する	・地域の民生委員さんや区長さん、近所の方と連絡して地域の見守りや情報提供のお願い等をしました。・利用者の変化時には家族に連絡しました。	・訪問時は会社の連絡先が入った車を使用するので、近所の方から利用者に関した問い合わせや情報が入ってきます。	利用者の状態や生活の節目に「あんしん連携ファイル」の記入をし、多職種で意識して活用する。(利用者の人生記録になる)
E. 運営推進会議を 活かした取組み	「一人暮らしの方」「認知症の方」の事例検討を行う。町内の方の事業所見学を計画する。	・認知症に関しての相談、どういう手順で介護サービスが始まるのか説明できました。・介護度によるサービス量の違いや費用の説明が出来ました。(地域の方、家族の関心度が高いと感じた)	・今は何とか出来ているが、認知症になったらどうしよう？と不安になる。その時どうすればいいのか。	一人暮らしや認知症の方の生活の問題点や対応の仕方を一緒に話し合う。
F. 事業所の 防災・災害対策	防災について話し合う。水害・火災・震災の時の対応、備蓄品目などをより具体的に検討する。災害時の介護、特に排泄と体調管理について具体的に考える。	具体策は整備半ばです。自然災害の種類や規模の違いはあるが、緊急時対応として重なる部分があるのできちんと整理して対応策を整えたい。	・独居の方は事業所の事を知っていないかもしれないが、区の役員としては災害時には助けてもらえるのではないかと期待している。	災害時3日分のメニューと材料を準備する。簡易トイレ使用時の汚物の処理と破棄の仕方を決める。怪我や発熱時の応急手当に必要な物品を準備する。